

## 2 国 語

### 松 蔭 高 等 学 校

#### 令和二年度 松蔭高等学校入学試験問題

## 国 語

○ 注 意

- 1 問題は①から④までで15ページにわたって印刷してあります。
- 2 指示があるまで中を見てはいけません。
- 3 検査時間は五〇分です。
- 4 解答はすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから新しい解答を書きなさい。
- 6 検査番号(算用数字)、氏名を、解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

それは雪野が中学生の頃、古典の授業中の出来事だった。

和歌の紹介として、①万葉、古今、新古今からそれぞれ一首ずつが教科書に載っていた。そのうちの万葉の一首が、理由も分からぬまま十三歳の雪野の目を吸い寄せた。

へ

く

歌の意味を考えるより先に教科書の黒い活字が溶けて、草原のかなたに紫色の朝焼けが浮かんだ。その風景の中でくると反対を向くと、群青の空の山際に、描き足したような白い月がぼつんとかかっている。文字からこんなにくつきりと情景が浮かぶなんて雪野には初めての経験で、いったいなにごと！と呆然として、

「それはきつと、こんな眺めやったんかもしれんね」

と優しい声で陽菜子先生がそう言つて、チョークを手に黒板に楽しそうに絵を描き始めた。馬に乗った男の小さなシルエット。それを取り囲むようにして、ピンク、黄色、水色、青を重ねたグラデーシヨンの空。最後に白のチョークで小さな月を描き足す。ぞくり、と雪野の全身に鳥肌が立った。私が見たのと同じ風景！

放課後の美術室で②そのことを陽菜子先生に話すと、彼女は少女のような声をあげてはしゃいでくれた。

「えええ、ウソ！ それつてすごい、人麻呂が私たちに同時に憑依したんかもねえ！」

「げー、オカルト」と美術部の男子生徒。「陽菜子先生がアブないのは知ってたけど、ゆきのんもそっち系？」とからかうように女子生徒。

「違う違う、びっくりしたってだけの話よお」と思わず唇を尖らせて雪野は言う。雪野の表情にその場の全員が見とれ、一瞬後に敵意のような気配ががすかに立ち上がる。ああ、また、と雪野が絶望的に思ったその直後に、陽菜子先生の教師らしく整えた声が差し込まれる。

「千年たっても人間の心は変わらんわいねえ。古典って素敵じゃろ？」

まあそうかも、とか、でもちよつと難しいわい、とか生徒たちは答え、陽菜子先生はふふふ、と優しく笑う。その場は和やかに回る。窓からの低い夕日が、陽菜子先生のふっくらした輪郭と、制服姿の生徒たちの姿を絵画のように浮き上がらせている。ホッとする心持ちで、<sup>③</sup>その通りだと雪野は思う。また私を助けてくれた上に、そんなふうに見える陽菜子先生は本当にホントにほんとうに素敵。世界と自分との間の空白にまたひとつ、カチン、という音を立てて歯車が差し込まれたような気がする。陽菜子先生のおかげで、私はすごく救われている。

愛媛での子供時代を通じて、雪野は周囲の誰よりも美しい少女であり、そしてその美しさは彼女をおおむね不幸にしていた。

非現実的なくらい、異様なくらい、雪野は美しかった。山と海と田んぼと貯水池とみかん畑に囲まれた小さな町の中で、どこにいても彼女は嫌というほど目についた。誰かとすれ違うたびに皆が例外なく驚いた顔で雪野を見つめ、そのたびに雪野の心は傷ついた。自分はそんなに奇妙な顔をしているのだろうか、幼い彼女は真剣に悩んだ。

過疎化の進む小学校の中で、雪野の苦悩はなおさら<sup>a</sup>シンコク<sup>b</sup>だった。頭はクラスメイトと並ぶと不自然

なほど小さく華奢<sup>c</sup>で、手足は折れそうに細く長く白く、顔は作りものめいた精巧さで、二重の誰よりも大きな瞳は黒く神秘的に濡れていて、思慮深い長い睫毛<sup>d</sup>には鉛筆だつて乗りそうだった。おどおどとおびえたような態度は、幼さとは釣り合わぬ異様な色気となって逆に雪野を目立たせた。灰色の海原に浮かぶ真っ白な帆船みたいに、誰の目にも明らかになまぶしい光のようなものを――彼女自身はちつとも望まなかったにもかかわらず、雪野は放っていた。

雪野がいると、とにかくその場の空気が変わるのだ。男子はどことなく落ちつかなくなるし、女子たちはそのせいで機嫌が悪くなる。雪野は消しゴムをかけていても給食を配膳していても牛乳を飲んでいても解答を間違えてもすさまじく絵になるから、教師は皆無意識のうちに彼女に頻繁に声をかけたし、そのことが彼女をさらに周囲から<sup>b</sup>コリツ<sup>c</sup>させた。その上、常に<sup>c</sup>キンチョウ<sup>d</sup>もしていたせいかあまり器用ではなく、体育や音楽は苦手だった。平均台さえまっすぐ歩けなかったし、カスタネットでさえ上手に叩けない。そういう他の子供であれば誰も気にしないような失敗も、雪野がすると全員の印象にどうしようもなく刻まれるのだ。そして<sup>④</sup>異物を排する正当な理由を得たともいうように、子供たちは皆堂々とひそひそとささやくのだ。あの子、ちいとおかしいよねと。すこしでも目につかぬよう、息を潜めるようにして雪野は生きた。

だから中学生になって初めて陽菜子先生に会った時から、雪野は彼女が羨ましくて仕方なかった。彼女は二十代半ばの国語教師で、雪野にないものをすべて持っていた。鋭さとは無縁のふくよかな優しい顔も、思わず抱きつきたくくなるような柔らかく丸みを帯びた体つきも、誰のことも緊張させない穏やかな物腰も。小川先生ではなく皆が自然に陽菜子先生と呼んでしまう、その素朴で親密な存在感も。

<sup>⑤</sup>先生は世界とぴたりくっついていて、と雪野は思った。自分の容姿は私を世界から遠ざけるけれど、陽菜子先生の丸い顔は世界の祝福そのもの。先生のような姿に生まれたかったと何度も願った。朝起きると陽菜子先生の姿になっている自分を、ばからしいくらいの真剣さで夜な夜な雪野は想像した。

そして驚くべきことに、陽菜子先生は自分の非現実ささえもごく自然に薄めてくれるらしいことに、雪野はやがて気づく。⑥ 雪野が場の空気を変えてしまいそうになると、陽菜子先生はいつも巧みにそれを抑えてくれるのだ。意識してか無意識か、とにかく雪野に視線が集まりそうになるとまるでそっとたしなめるみたいに自然に言葉を差し込んで、皆の<sup>d</sup>カンシンを逸<sup>そ</sup>らしてくれる。さらにそのことによって、クラスメイトたちも徐々に雪野の特別さへの接し方を学んでいって来てくれるようですらあった。

陽菜子先生が担任だったら、と雪野は三年間願い続けそれは結局叶<sup>かな</sup>わなかったが、そのかわりに彼女が顧問を務める美術部に入り、そこでの時間は<sup>おかげさ</sup>大袈裟ではなく雪野にとって救いとなった。ほとんど初めて、学校という場所が苦痛ではなくなった。不格好なジャンパーとスカートの制服に包まれた<sup>あか</sup>垢抜けな女子生徒たちの中で一人、それさえもまるで特別にあつらえたかのように着こなしてしまふ雪野ではあったが、しかし同じ年齢の友人たちと話す喜びをその場所で初めて知ったのだった。そしてそのすべてが陽菜子先生のおかげだった。

(新海 誠『言の葉の庭』)

\*人麻呂：万葉集の歌人。柿本人麻呂

問1 〓線 a、d のカタカナを正しい漢字で書きなさい。

問2 〓線①「万葉、古今、新古今」について、それぞれの説明を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 最初の勅撰和歌集で、情緒的な美を重んじた繊細で優美な歌風である。
- イ 現存する最古の歌集で、豊かな人間性を率直に力強く表現した歌が多い。
- ウ 八代集の最後となる勅撰和歌集で、幽玄を尊び技巧を凝らした余情ある歌が多い。

問3 へ 〓に入る和歌を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 春過ぎて夏きたるらし白たへの衣乾したり天の香具山
- イ ひむがしの野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ
- ウ ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは
- エ 田子の浦にうち出でてみれば白たへの富士のたかねに雪は降りつつ
- オ なにとなく君に待たるるこちして出でし花野の夕月夜かな

問4 〓線②「そのこと」、③「その通り」が指していることを説明しなさい。

問5 ——線④のような行動を子供たちがとる心情として、あてはまるものを次の中から全て選び、記号で答えなさい。

- ア 雪野の美しさに嫉妬して雪野を悪く言うのだとは思われたくない。
- イ 雪野の失敗を批判して陽菜子先生に嫌われたくない。
- ウ 際立って美しいことは責めることはできないが、際立って失敗が多いことは批判しやすい。
- エ 先生たちに特別扱いされている雪野の失敗は、どうしても許せない。
- オ 雪野が優秀な生徒ではないことを、何とかして先生たちに分かってもらいたい。

問6 ——線⑤はどういうことか、説明しなさい。

問7 ——線⑥が具体的に書かれている一文を探し、最初の五字を書きなさい。

## 2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最近、東京<sup>a</sup> キンコウの電車やバスの優先席に、平然と座<sup>すわ</sup>っている学生や若者が多いのには驚<sup>おどろ</sup>かされる。高齢者が立っ<sup>た</sup>ても席を譲<sup>ゆ</sup>ったものかどうか迷っている様子でもない。／高齢者の仲間入りをした私も、優先席に座ることが多くなったが、目の前に同年配の人が立たれた時、譲るかどうか迷ってしまう。かえって失礼にならないかと思い、勇気が出なくて寝たふりを決め込んでしまうので、他人のことをとやかく言えるような自分ではないと反省している。／しかし空けた席に座ることを固辞されたときほど困ってしまうことはない。先日、つえを使っている私より若いと思われる女性に、勇気を出して席を譲った。「すぐ降りますから」と言われ、一瞬「シマッタ!」と思った。と、その時、「ありがとうございます。せっかくですのだから」と言われ、一瞬「シマッタ!」と、エシヤクをされ座ってもらえた。親切はするのでもされるのも、少し勇気のあることだと思った。(『毎日新聞』二〇〇七年八月三一日付)

① この女性も、相手に失礼なことをしないよう、とても慎重です。思いやりの<sup>c</sup>ケツジヨどころか、過剰にやさしいのです。

この慎重な態度に関連するのが「②<sup>b</sup>ひとそれぞれ」という認識<sup>にんしき</sup>です。

メディアを通して、現代人は「ひとそれぞれ」という思いを強く持っています。たとえば、席をゆずったら感謝してくれる高齢者がいる一方で、怒りだす高齢者もいる、席をゆずられることひとつとっても、よるこんでくれるひと、怒るひと、「ひとそれぞれ」なんだ、というような思いです。

このような思いを多くのひとが持つのは、社会で「ひとそれぞれ」が強調されるからです。「ナンバーワン

よりオンリーワン」という言い方に、シヨウチヨウウされるように、現代社会では、ひとそれぞれの個性が、もっとも大切なこととして宣伝されています。「生徒ひとりひとりの個性を伸ばす教育」「高齢者の個別のニーズに対応した介護」「お客様ひとりひとりにあわせたサービス」など、数えあげたらきりが無いほどに、個性が重要だ、と唱えられています。

A、ひとを傷つけてはならないこと。このころの傷を強調する社会は、個性性を強調する社会でもあります。以前は、お年寄りにはこうすればよい、という多くの高齢者に応用可能な接し方がありましたが。それが「年寄りあつかい」です。B、お年寄りにもいろんなひとがいるのに、ただ見た目だけで「年寄りあつかい」され、傷ついたひとがいる。というようなことが叫ばれはじめました。このように、ひとを傷つけることがいかにひどいことかと、「ひとそれぞれ」は、同時に強調されるのです。

「ひとそれぞれ」で、他者を傷つけてはならないのであれば、ひとはかなり慎重に行動しなければならなくなります。高齢者だからといって、ひとくくりにはできません。目の前にお年寄りがいる、席を代わったほうがいいかな、でも、老人あつかいされたくないかもしれない。どっちなんだろう。そう考えれば、慎重になるほかありません。

席をゆずられたお年寄りがみな、よろこんでくれるなら、もう少し状況は異なっていたでしょう。それほど慎重にならずにすむからです。でも、席を代わられて怒るお年寄りもいます。怒るお年寄りは、ほかの年寄りといっしょにするな」と、自分の個性を重要視しているのでしょうか。

このように、社会全体で、個性性と予防的やさしさをきびしく守ろうとしているのですから、ひとびとが慎重になっても、まったく不思議ではありません。

(森 真一『本当はこわい』やさしさ社会)

問1 線 a、d のカタカナを正しい漢字で書きなさい。

問2 線①「この女性も、相手に失礼なことをしないよう、とても慎重です。」とあるが、なぜ慎重になるのか、文中の語を用いて説明しなさい。

問3 線②「ひとそれぞれ」と反対の意味で使われている五字の言葉を文中から抜き出しなさい。

問4 線③「多くの高齢者に応用可能な接し方」ができなくなっている理由を説明しなさい。

問5 本文のどこかに次の一文が入るが、その箇所の前の方の最後の七文字を書きなさい。(句読点は含まない)

席をゆずったなら、気を悪くするかも。

問6

A

B

に入る語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア そして

イ けれども

ウ そもそも

エ もしかしたら

問7 この文章にタイトルをつけるとしたら次の中のどれが適当か、一つ選び記号で答えなさい。

ア ナンバーワンよりオンリーワン

イ 年寄りあつかい

ウ やさしさの予防

エ 個別性と慎重さ

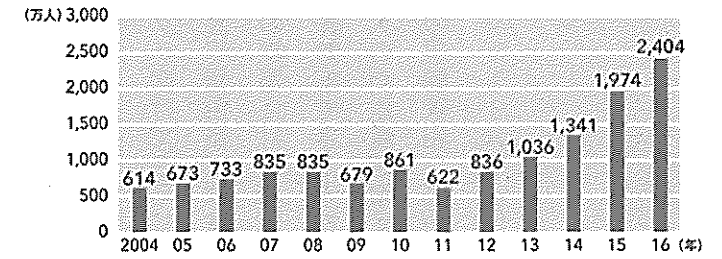
3

次は、日本を訪れた外国人観光客や観光振興について書かれた文章です。  
これを読んで後の問いに答えなさい。

近年、訪日外国人客が急増している。日本政府観光局によると、二〇一七年は二八六九万人。二〇一六年は二四〇四万人。二〇一五年は一九七四万人。二〇一四年は一三四一万人である。三年間で X 倍以上に増加している。日本政府は観光立国を目指した。ビザ発給要件の緩和、海外での訪日プロモーションへの取り組み、経済発展の著しいアジアの国々で海外旅行需要が高まっていることなどが背景にあるようだ。二〇一七年三月、政府は新たに、二〇二〇年までに訪日客四〇〇〇万人を目指すことを決定した。二〇二〇年東京オリンピックへ向けてさらに日本への注目度が高まり、一段と旅行需要が高まることが予想される。観光客が増加すると、宿泊業、飲食業、運輸業、小売業など幅広い業界に消費や雇用の波及効果をもたらすことになる。今後の課題と対策の例としては、言語面でのバリアフリーの充実などが考えられる。

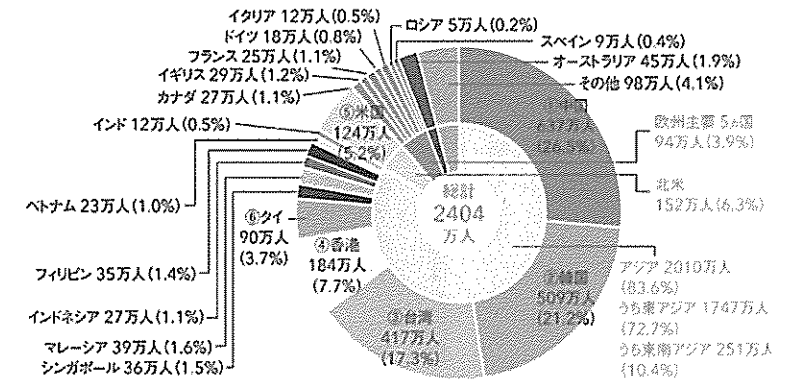
次に、外国語に対応できる人材を増やすことも課題であろう。観光案内所や主要駅はもちろん、救急車、病院などで外国人の利用者が増えることが予想される。さらに、都市部ではホテル不足が深刻である。民泊を推進するための規制緩和などが予想されるが、騒音など周辺住民とのトラブルもまた問題である。

訪日外国人旅行者数の推移



図①

訪日外国人旅行者の内訳2016年(平成28年)



図②

右記の図①は訪日外国人旅行者数の推移である。図②は訪日外国人旅行者の内訳である。図①から読み取れることとしては、**A** 期間に急激に訪日客が伸びていることである。このことから宿泊施設や外国語対応など国内の対応が追い付いていない状況がある。図②から読み取れることとしては、**B**、**C**、**D**、が上位三位で、訪日客の **E** 分の **F** を占める。さらに **G** からの訪日客の取り込みが課題である。

問1 **X** にあてはまる数字を書きなさい。

問2 ——線「言語面でのバリアフリーの充実」とあるが、実際に人と人が会話する以外での「言語面でのバリアフリー」とはこういったものが考えられるか。具体的に書きなさい。

問3 **A**、**G** に当てはまる言葉を図①、②を参考に答えなさい。



4 次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑥の慣用句の（ ）に入る語を後から選び、ひらがなで書きなさい。

- ① ( ) 寝入り
- ② ( ) の涙
- ③ ( ) が合う
- ④ ( ) の一声
- ⑤ ( ) をかぶる
- ⑥ ( ) の嫁入り

狐 雀 鶴 狸 猫 馬

問2 次の①～⑤の説明に合う作品を、後のア～クの中から選び、記号で答えなさい。

- ① 平安時代に成立されたといわれる、日本最古の物語
- ② 紀貫之によって仮名文字で書かれた、「男もすなる日記といふものを」から始まる作品
- ③ 鴨長明によって書かれた、「ゆく河の流れは絶えずして」から始まる作品
- ④ 兼好法師によって書かれた、「つれづれなるままに、日暮し硯に向かひて」から始まる作品
- ⑤ 松尾芭蕉によって書かれた、「月日は百代の過客にして」から始まる作品

ア	今昔物語集	イ	土佐日記	ウ	源氏物語	エ	竹取物語
オ	方丈記	カ	更級日記	キ	徒然草	ク	おくのほそ道

令和二年度 松蔭高等学校 入学試験  
**国語解答用紙** ○

4		
問2	問1	
①	④	①
②	⑤	②
③	⑥	③
④		
⑤		

3			
問3	問2	問1	
E	A		
F	B		
G	C		
	D		

2				
問5	問4	問3	問2	問1
				a
				b
				c
				d
問6				
A				
B				
問7				

1							
問7	問6	問5	問4		問3	問2	問1
			③	②		万葉集	a
						古今和歌集	b
						新古今和歌集	c
							d

考查番号

氏名

得点